

令和5年度学習状況調査 小・中学校共通 質問紙 質問のねらい

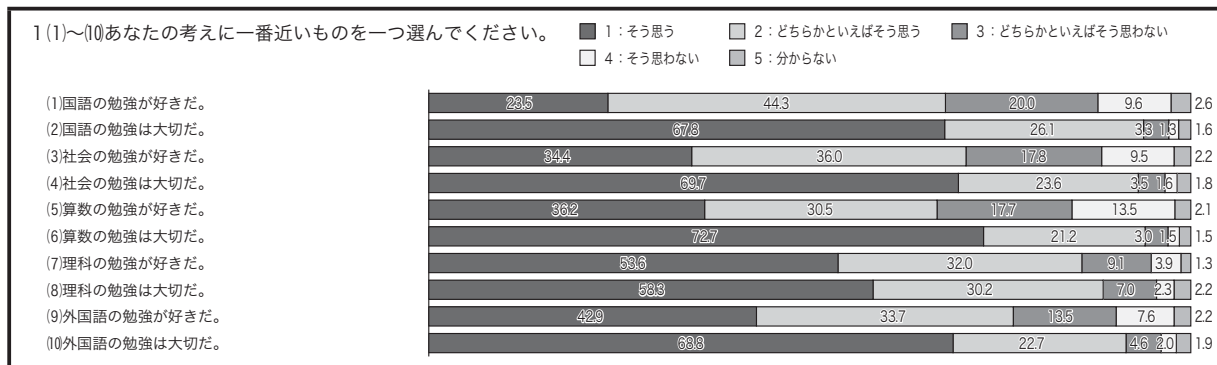
質問番号	内 容	質 問 の ね ら い
1	教科の学習に対する児童生徒の意識について	(1) 国語の勉強が好きか。
		(2) 国語の勉強を大切に思っているか。
		(3) 社会の勉強が好きか。
		(4) 社会の勉強を大切に思っているか。
		(5) 算数（数学）の勉強が好きか。
		(6) 算数（数学）の勉強を大切に思っているか。
		(7) 理科の勉強が好きか。
		(8) 理科の勉強を大切に思っているか。
		(9) 外国語（英語）の勉強が好きか。
		(10) 外国語（英語）の勉強を大切に思っているか。
2	教科の学習に対する児童生徒自身の理解度について	(1) 国語の授業をどの程度理解しているか。
		(2) 社会の授業をどの程度理解しているか。
		(3) 算数（数学）の授業をどの程度理解しているか。
		(4) 理科の授業をどの程度理解しているか。
		(5) 外国語（英語）の授業をどの程度理解しているか。
3	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に対する取組状況について	(1) 自分で考え、自分から取り組んでいるか。 【改】
		(2) 自分の考えをまとめる活動を行っているか。 【新規】
		(3) 自分の考えを深めたり、広げたりしているか。 【改】
		(4) 授業で学習への取組の様子を振り返っているか。 【改】
		(5) 学んだことを見直し、次の学習につなげているか。 【新規】
		(6) 授業で分からないことをどのように解決しようとしているか。
4	授業におけるICT機器の活用について	(1) 自分で調べる場面でICT機器をどの程度使っているか。 【新規】
		(2) 意見交換する場面でICT機器をどの程度使っているか。 【新規】
		(3) 自分の考えを発表する場面でICT機器をどの程度使っているか。 【新規】
		(4) 学習でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか。 【新規】
5	家庭での学習の取組について	(1) 平日の学習時間はどれくらいか。
		(2) 平日の勉強にICT機器をどれくらい使っているか。 【新規】
		(3) 休日の学習時間はどれくらいか。
		(4) 平日、どのような内容の学習に取り組んでいるか。
6	児童生徒の読書、新聞を読むことについて	(1) 1日の読書時間はどれくらいか。
		(2) 新聞を読む回数はどれくらいか。
7	児童生徒の進路意識・自己認識等について	(1) 自分によいところがあると思っているか。
		(2) 将来への夢や目標を持っているか。
		(3) 学習と生活や社会の結び付きを感じているか。
		(4) 地域の行事に参加しているか。
		(5) 自分の進路をどう考えているか。

◇概要及び考察◇ (平成29年度、令和2年度は、未回答の数値を表記していないため、100%とならない。)
(令和5年度は、切り上げ等で100%とならないところもある。)

(1) 小学校第5学年

① 勉強について

(単位：%)



		そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう 思わない	分からない
国語の勉強が好きだ。	平成29年度	26.9	40.6	20.8	9.6	2.1
	令和2年度	27.0	41.4	21.0	8.4	2.1
	令和5年度	23.5	44.3	20.0	9.6	2.6
国語の勉強は大切だ。	平成29年度	72.2	20.1	4.6	1.9	1.3
	令和2年度	73.6	19.6	3.7	1.8	1.3
	令和5年度	67.8	26.1	3.3	1.3	1.6
社会の勉強が好きだ。	平成29年度	38.5	35.1	16.9	7.9	1.4
	令和2年度	38.1	33.7	18.1	8.4	1.7
	令和5年度	34.4	36.0	17.8	9.5	2.2
社会の勉強は大切だ。	平成29年度	71.4	20.3	4.5	2.4	1.3
	令和2年度	72.2	20.1	4.3	2.3	1.1
	令和5年度	69.7	23.6	3.5	1.6	1.8
算数の勉強が好きだ。	平成29年度	45.0	29.0	15.0	9.2	1.7
	令和2年度	41.6	28.4	17.2	10.7	2.2
	令和5年度	36.2	30.5	17.7	13.5	2.1
算数の勉強は大切だ。	平成29年度	75.9	16.5	4.2	2.2	1.1
	令和2年度	75.3	17.1	4.1	2.1	1.4
	令和5年度	72.7	21.2	3.0	1.5	1.5
理科の勉強が好きだ。	平成29年度	65.5	23.6	7.2	2.8	0.8
	令和2年度	59.6	26.9	8.6	3.7	1.0
	令和5年度	53.6	32.0	9.1	3.9	1.3
理科の勉強は大切だ。	平成29年度	69.4	21.2	5.5	2.4	1.4
	令和2年度	63.4	25.6	6.7	2.8	1.5
	令和5年度	58.3	30.2	7.0	2.3	2.2
外国語の勉強が好きだ。	平成29年度	62.8	23.3	7.9	4.6	1.3
	令和2年度	40.7	32.9	15.7	8.7	2.0
	令和5年度	42.9	33.7	13.5	7.6	2.2
外国語の勉強は大切だ。	平成29年度	77.4	15.3	3.7	2.1	1.4
	令和2年度	68.7	21.1	5.4	3.0	1.7
	令和5年度	68.8	22.7	4.6	2.0	1.9

ア 概況

- 「勉強が好きだ（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。）」と回答した児童の割合は、平成29年度、令和2年度と比べ、国語、社会、算数、理科では大きな変化はなく、理科は8割以上が好意的な回答である。
- 「勉強は大切だ（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。）」と回答した児童の

割合においても、国語、社会、算数、外国語で9割を超えている。平成29年度と令和2年度と比べても、大きな変化は見られない。

イ 課題

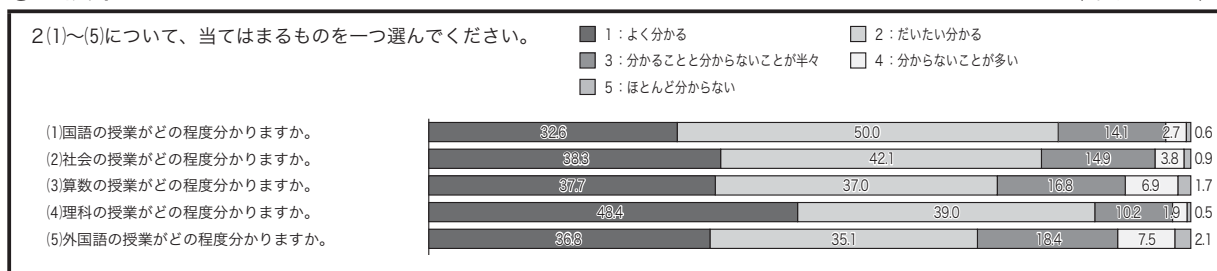
- 「外国語の勉強が好きだ」の項目において、「好きだ」（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。）と回答した児童の割合の経年変化を見ると、前回の令和2年度に比べ3ポイント上昇しているものの、平成29年度と比べると9.5ポイント減少している。

ウ 今後の対応等

- 児童の興味・関心や驚き、好奇心、疑問などを基に児童の学ぶ意欲を高めるための工夫をするとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く学ぶことができるような指導の工夫・改善に継続して取り組む。
- 体験活動を含め、生活や社会との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動をさらに充実させていく。
- 外国語については「好きだ」と回答している児童は、学習指導要領改訂前に比べ大きく減少しているが、「大切だ」と回答している児童は変化が見られず、9割を超える児童が「大切だ」と認識していることがわかる。今後は学習指導要領の目標等に照らし、コミュニケーションの充実を図るなどの授業の充実を図る必要がある。

② 授業について

(単位：%)



		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半々	分からないことが多い	ほとんど分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	36.0	45.4	14.5	3.1	0.9
	令和2年度	38.4	44.5	13.8	2.3	1.0
	令和5年度	32.6	50.0	14.1	2.7	0.6
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	41.0	40.0	14.7	3.2	1.0
	令和2年度	43.5	38.7	13.7	3.1	1.0
	令和5年度	38.3	42.1	14.9	3.8	0.9
算数の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	45.4	33.9	14.8	4.5	1.4
	令和2年度	42.8	33.3	16.6	5.5	1.7
	令和5年度	37.7	37.0	16.8	6.9	1.7
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	57.5	32.1	7.8	1.9	0.6
	令和2年度	55.8	32.3	9.2	2.0	0.7
	令和5年度	48.4	39.0	10.2	1.9	0.5
外国語の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	48.2	32.8	12.5	4.4	2.1
	令和2年度	37.0	35.6	18.0	6.8	2.5
	令和5年度	36.8	35.1	18.4	7.5	2.1

ア 概況

- 「授業が分かる（「よく分かる」「だいたい分かる」の合計。）と回答した児童の割合は、国語、社会、理科が8割を超えている。

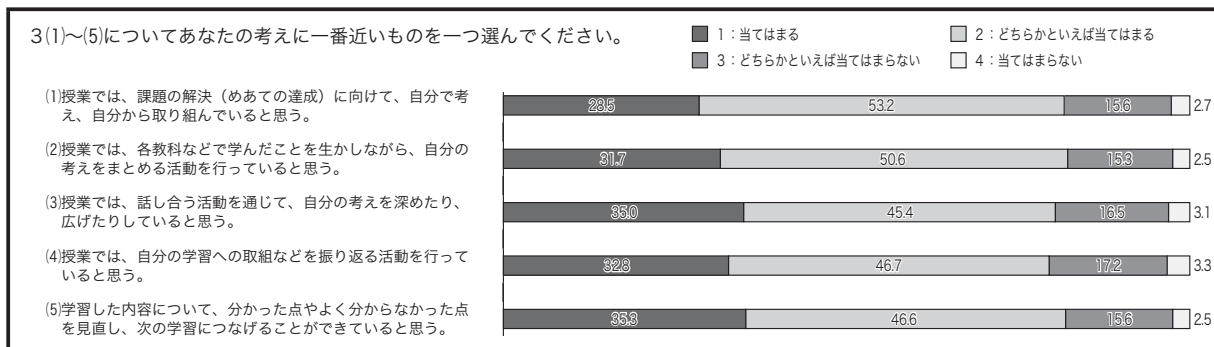
イ 課題

- 算数、外国語では、「授業が分からない（「分かることと分からないことが半々」「分からないことが多い」「ほとんど分からない」の合計。）と回答した児童の割合が2割を超えている。特に外国語は、平成29年度に比べ9ポイント増加している。

ウ 今後の対応等

- 学習評価を適切に行い、児童の学習状況を的確に捉え、指導の改善に生かすとともに、ICT機器等を活用するなど、学習内容の理解を促すよう工夫する。
- 算数及び外国語においては「分からない」という苦手意識を克服するためにも、「ねらい」と「まとめ」を明確にし、学ぶ必要感のある課題設定など、主体的に学習に取り組めるようにする。

③ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に対する取組状況 (単位：%)



		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、課題の解決(めあての達成)に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	令和5年度	28.5	53.2	15.6	2.7
【参考】授業では、自分の考えをもつことができている。	平成29年度	35.3	43.7	17.3	3.6
	令和2年度	36.3	43.5	17.4	2.8
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると思う。	令和5年度	31.7	50.6	15.3	2.5
授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	令和5年度	35.0	45.4	16.5	3.1
【参考】授業では、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	平成29年度	37.9	40.5	17.9	3.7
	令和2年度	37.1	41.0	18.4	3.5
授業では、自分の学習への取組などを振り返る活動を行っていると思う。	令和5年度	32.8	46.7	17.2	3.3
【参考】授業では、自分の学習への取組の様子などを振り返る活動をよく行っていたと思う。	令和2年度	36.2	41.3	18.7	3.8
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う。	令和5年度	35.3	46.6	15.6	2.5

ア 概況

- 「授業では、課題の解決(めあての達成)に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると思う。」「授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。」「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う。」(いずれの項目も「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。)と回答した児童の割合は8割を超えている。

イ 課題

- 「授業では、自分の学習への取組などを振り返る活動を行っている。」の項目において、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の合計。)と回答した児童の割合が2割を超えている。

ウ 今後の対応等

- 児童が授業を通して、自らの学習への取組の状況を具体的に振り返る活動を意図的・計画

的に取り入れる必要がある。その際、教師は、振り返る活動の目的や意図を明確にし、指導・評価することで、達成できているかどうかを適宜確認する必要がある。

- 授業の中で、自分の考えをまとめること、互いに考えたり、発表したりする活動を行うことは、思考力・判断力・表現力等の育成に極めて重要であることから、引き続き、計画的に取り入れるようにする。

□ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。 (複数回答) (単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成29年度	29.9	19.3	62.4	57.7	5.3	46.0	13.5
令和2年度	34.0	23.1	67.7	57.6	5.5	47.2	14.4
令和5年度	37.7	19.8	68.8	49.6	4.9	48.3	16.1

ア 概況

- 児童が分からないことを多様な方法で理解しようとしていることがうかがえる。
- 授業の中で分からないことがあった場合、「その場で先生にたずねる」「友人にたずねる」「自分で調べる」と回答した児童の割合が、前回調査に比べ増加している。

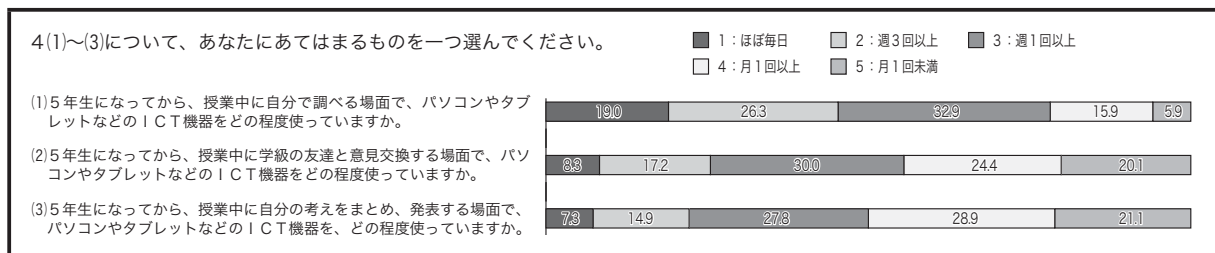
イ 課題

- 分からないことを「そのままにしておく」と回答した児童の割合が、前回調査に比べ増加している。

ウ 今後の対応等

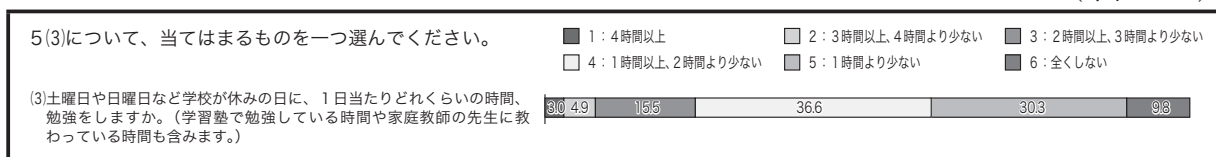
- 授業中の児童への個別の指導を丁寧に行うことで、授業内容の確実な定着を図る必要がある。
- 教師が一人一人の児童と触れ合う機会を確保し、信頼関係を築いた上で児童が相談しやすい人間関係を構築する。
- 分からないことを児童自身が調べてみることも大切であることから、ICT機器等を活用した調べ方や調べたことのまとめ方などを含めた情報活用能力の育成を図る指導の充実が必要である。

④ ICT機器の活用について (単位：%)



		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
5年生になってから、授業中に自分で調べる場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。	令和5年度	19.0	26.3	32.9	15.9	5.9
5年生になってから、授業中に学級の友達と意見交換する場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか。	令和5年度	8.3	17.2	30.0	24.4	20.1
5年生になってから、授業中に自分の考えをまとめ、発表する場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。	令和5年度	7.3	14.9	27.8	28.9	21.1

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(単位：％)



	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない
平成29年度	3.2	9.0	19.8	38.7	25.1	4.3
令和2年度	3.2	9.8	18.7	38.7	24.5	5.1
令和5年度	3.0	4.9	15.5	36.6	30.3	9.8

- 普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。
(複数回答) (単位：％)

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習をする	復習をする
平成29年度	2.9	78.4	49.9	27.6	50.7
令和2年度	3.4	82.0	36.3	28.3	50.0
令和5年度	7.5	87.4	29.3	22.8	46.8

	興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする	苦手な教科に取り組んでいる	時間を決めて、勉強をしている	学習する内容を自分で決めて、勉強をしている
平成29年度	25.9	32.4	22.0	43.1
令和2年度	26.5	29.7	23.4	41.4
令和5年度	33.1	28.0	25.6	36.9

ア 概況

- 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「2時間以上」「3時間以上」の合計。）勉強している児童の割合は5割を超えている。
- 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「2時間以上」「3時間以上」の合計。）ICT機器を勉強のために使っている児童の割合は2割を超えている。
- 普段（月曜日から金曜日）、児童が家庭学習に取り組んでいる内容としては、「宿題が出れば、宿題をする」の割合が8割を超えている。次いで、「復習をする」「学習する内容を自分で決めて、勉強している」「興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする」の順で回答した児童の割合が高くなっている。
- 休日（土曜日や日曜日など学校が休みの日）に、1日当たり2時間以上（「3時間以上」「4時間以上」の合計。）勉強している児童の割合は2割以上と前回調査より低くなっている。

イ 課題

- 普段（月曜日から金曜日）に、家庭学習の時間が1時間より少ない（「30分以上、1時間より少ない」「30分より少ない」「全くしない」の合計。）児童の割合が4割を超えている。
- 休日（土曜日や日曜日など学校が休みの日）に家庭学習を「1時間より少ない」「全くしない」と回答した児童の割合が前回までの調査よりも増加しており、4割を超えている。
- 普段（月曜日から金曜日）の家庭学習の内容について、前回調査と比較すると、「試験があればそれにそなえて勉強する」「復習をする」「学習する内容を自分で決めて、勉強をしている」児童の割合が低下している。「ほとんど勉強しない」と回答した児童の割合が前回調査より、倍増している。

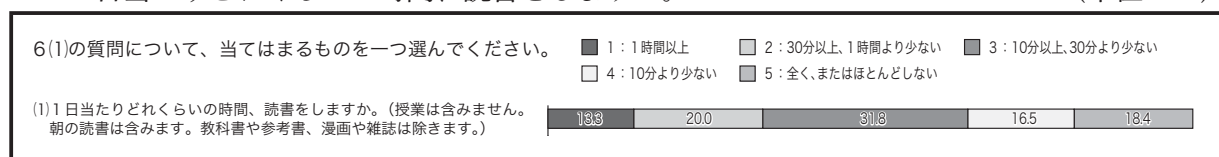
ウ 今後の対応等

- 学校や児童の実態を分析し、学年ごとの学習時間の設定や、教科ごとの学習方法について、教職員間で共通理解を図りながら改善していく。

- 苦手な教科や興味があることについて、自分で調べたり、確かめたりするなど、各教科の特性に応じたICTを活用した学習方法について、具体的に指導するなど支援する必要がある。
- 児童が自主的に家庭学習に取り組めるよう、個に応じた学習内容を設定し、具体的に指導する必要がある。また、特に、家庭学習を全くしない児童について、家庭学習の習慣化を図るために、保護者と家庭学習について情報共有しながら家庭との連携を図る必要がある。

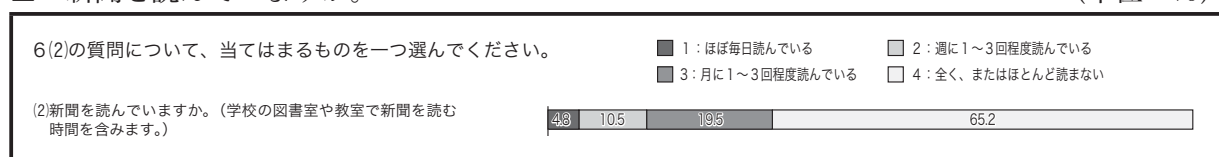
⑥ 読書・新聞を読むことについて

1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 (単位：%)



	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、またはほとんどしない
平成29年度	17.4	26.8	32.2	11.0	12.4
令和2年度	15.3	27.4	31.0	12.3	14.0
令和5年度	13.3	20.0	31.8	16.5	18.4

新聞を読んでいますか。 (単位：%)



	ほぼ毎日	週に1～3回程度	月に1～3回程度	全く、またはほとんど読まない
令和2年度	4.5	13.5	22.1	59.9
令和5年度	4.8	10.5	19.5	65.2

ア 概況

- 読書時間は、「10分以上、30分より少ない」と答えた児童の割合が3割を超えている。また、30分以上（「1時間以上」「30分以上、1時間より少ない」の合計。）の読書をしている児童の割合が3割を超えている。
- 家庭や学校で、週に1回以上（「ほぼ毎日」「週に1～3回程度」の合計。）新聞を読んでいる児童の割合は1割を超えている。

イ 課題

- 読書を「全く、またはほとんどしない」「10分より少ない」と回答した児童が2割を超えている。
- 新聞を「全く、またはほとんど読まない」と回答した児童が6割を超えており、前回調査よりも増加している。

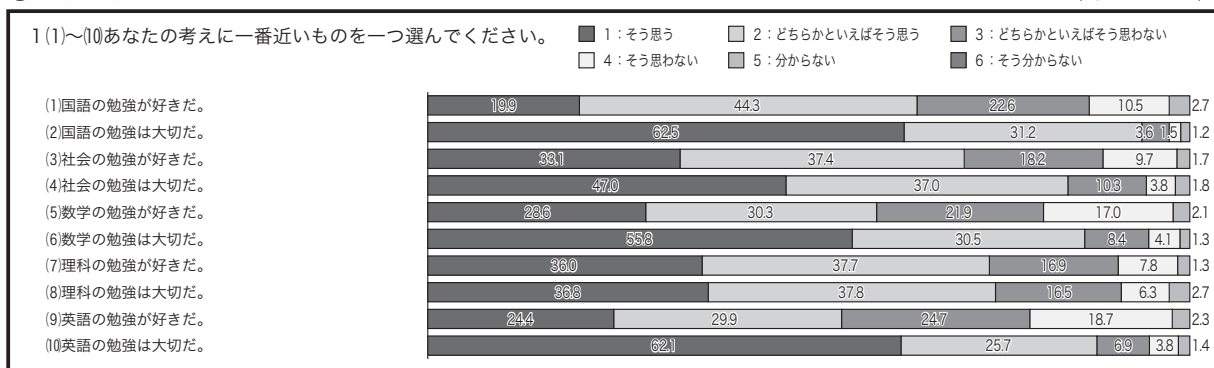
ウ 今後の対応等

- 学校や家庭において、読書習慣を身に付けさせる取組を工夫したり、保護者への協力を求めたりすることが必要である。
- 授業などで、新聞の適切な活用を図ることが重要である。

(2) 中学校第2学年

① 勉強について

(単位：％)



		そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらかとい えばそう 思わない	そう 思わない	分からない
国語の勉強が好きだ。	平成29年度	23.2	38.5	24.7	10.9	2.7
	令和2年度	23.6	40.8	24.0	9.5	2.2
	令和5年度	19.9	44.3	22.6	10.5	2.7
国語の勉強は大切だ。	平成29年度	65.0	27.5	4.1	1.9	1.4
	令和2年度	69.5	24.4	3.7	1.2	1.1
	令和5年度	62.5	31.2	3.6	1.5	1.2
社会の勉強が好きだ。	平成29年度	35.6	33.5	19.6	9.4	1.9
	令和2年度	35.7	33.4	20.4	8.7	1.8
	令和5年度	33.1	37.4	18.2	9.7	1.7
社会の勉強は大切だ。	平成29年度	48.8	33.4	11.2	4.3	2.3
	令和2年度	50.2	32.9	10.9	3.8	2.2
	令和5年度	47.0	37.0	10.3	3.8	1.8
数学の勉強が好きだ。	平成29年度	28.7	29.4	23.6	15.5	2.7
	令和2年度	30.3	30.3	22.2	14.9	2.4
	令和5年度	28.6	30.3	21.9	17.0	2.1
数学の勉強は大切だ。	平成29年度	58.1	28.0	8.5	3.5	2.0
	令和2年度	62.7	25.8	7.1	2.7	1.7
	令和5年度	55.8	30.5	8.4	4.1	1.3
理科の勉強が好きだ。	平成29年度	36.0	34.8	18.8	8.4	1.9
	令和2年度	37.1	35.4	18.0	7.8	1.7
	令和5年度	36.0	37.7	16.9	7.8	1.6
理科の勉強は大切だ。	平成29年度	41.4	32.5	16.7	6.6	2.8
	令和2年度	43.8	32.9	15.4	5.6	2.3
	令和5年度	36.8	37.8	16.5	6.3	2.7
英語の勉強が好きだ。	平成29年度	31.2	31.5	21.5	13.1	2.7
	令和2年度	28.5	32.2	22.7	14.3	2.3
	令和5年度	24.4	29.9	24.7	18.7	2.3
英語の勉強は大切だ。	平成29年度	60.2	23.9	8.7	4.7	2.4
	令和2年度	65.3	22.5	6.9	3.5	1.8
	令和5年度	62.1	25.7	6.9	3.8	1.4

ア 概況

- 「勉強が好きだ」（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。）と肯定的に回答した生徒の割合は、理科、社会の順で高く、7割を超えている。
- 「勉強は大切だ」（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計。）と回答した生徒の割合は、国語が9割を超えて最も多い。

イ 課題

- 「勉強が好きだ」の項目については、「好きではない」（「どちらかといえばそう思わない」

「そう思わない」の合計。)と回答した生徒の割合が、3割を超えたのは国語、数学、4割を超えたのは英語であった。

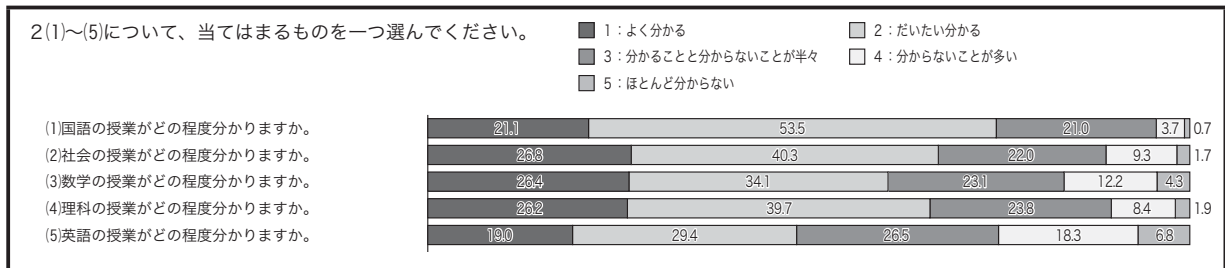
- 「勉強は大切だ」の項目については、「思わない」(「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計。)と回答した生徒の割合が、理科において2割を超えている。
- 「勉強が好きだ」「勉強は大切だ」の項目について、令和2年度調査(小学校第5学年時)との比較から、社会以外の教科で「好きだ」「大切だ」との回答が減少している。

ウ 今後の対応等

- これまでと同様に生徒の興味・関心や驚き、好奇心、疑問などを基に生徒の学ぶ意欲を高めるための工夫をするとともに、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、学習内容をより深く学ぶことができるような指導の工夫・改善を図る。
- 体験活動を含め、生活や社会との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていく。
- 各教科において、生徒に求められる資質・能力を育成するために、これまでの実践の蓄積を踏まえ、生徒や学校の実態、指導の内容に応じ、言語活動の充実や学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るなど、学習活動の質を更に改善・充実するような工夫をする。

② 授業について

(単位：%)



		よく分かる	だいたい分かる	分かることと 分からないこと が半々	分からない ことが多い	ほとんど 分からない
国語の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	22.5	51.7	20.5	4.3	1.0
	令和2年度	25.8	50.3	19.5	3.9	0.5
	令和5年度	21.1	53.5	21.0	3.7	0.7
社会の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	29.7	40.2	21.2	7.4	1.5
	令和2年度	31.1	39.7	20.2	7.7	1.3
	令和5年度	26.8	40.3	22.0	9.3	1.7
数学の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	27.6	35.1	23.0	11.0	3.2
	令和2年度	30.5	34.1	21.9	11.0	2.6
	令和5年度	26.4	34.1	23.1	12.2	4.3
理科の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	27.5	40.3	23.0	7.5	1.7
	令和2年度	29.4	38.8	23.1	7.6	1.1
	令和5年度	26.2	39.7	23.8	8.4	1.9
英語の授業がどの程度分かりますか。	平成29年度	26.1	34.3	23.1	12.6	3.8
	令和2年度	25.5	33.5	24.4	12.8	3.7
	令和5年度	19.0	29.4	26.5	18.3	6.8

ア 概況

- 「授業が分かる」(「よくわかる」「だいたい分かる」の合計。以下同じ。)と回答した生徒の割合は、国語が最も高く、7割を超えている。

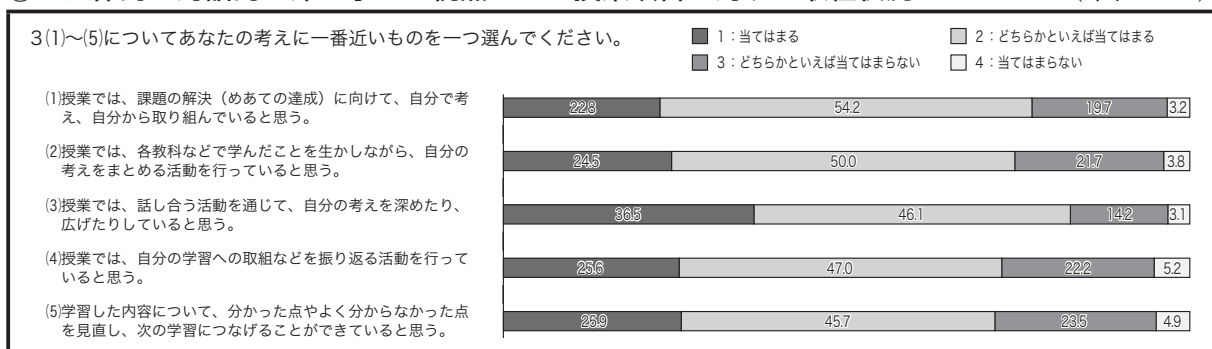
イ 課題

- 「授業が分かる」と回答した生徒の割合は、全教科において減少傾向である。特に、英語の授業においては、「授業が分かる」と回答した生徒の割合が、5割を下回っている。
- 「授業が分かる」と回答した生徒の割合を、令和2年度調査小学校第5学年時と比較すると、全ての教科で減少している。特に、理科と英語では約2割減少している。

ウ 今後の対応等

- 学習評価を適切に行い、生徒の学習状況を的確に捉え、指導の改善に生かすとともに、実験・観察やICT機器等を活用するなど、基礎的・基本的な学習内容の理解と定着を促すよう工夫する。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うために、単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するか考え、実践し、その成果を検証し授業改善を図ることを継続していく。
- 英語においては、生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

③ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に対する取組状況 (単位：%)



		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
授業では、課題の解決(めあての達成)に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	令和5年度	22.8	54.2	19.7	3.2
【参考】授業では、自分の考えをもつことができている。	平成29年度	30.1	45.7	20.4	3.8
	令和2年度	35.3	45.5	16.8	2.5
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていると思う。	令和5年度	24.5	50.0	21.7	3.8
授業では、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	令和5年度	36.5	46.1	14.2	3.1
【参考】授業では、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。	平成29年度	34.3	44.0	18.5	3.3
	令和2年度	39.8	41.8	16.1	2.3
授業では、自分の学習への取組などを振り返る活動を行っていると思う。	令和5年度	25.6	47.0	22.2	5.2
【参考】授業では、自分の学習への取組の様子などを振り返る活動をよく行っていたと思う。	令和2年度	29.2	43.4	23.5	3.8
学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う。	令和5年度	25.9	45.7	23.5	4.9
【参考】授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていると思う。	令和2年度	30.6	45.1	20.9	3.4

ア 概況

- 全ての項目において、「当てはまる」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。)と回答した生徒の割合は7割を超えており、特に「自分の考えを深めたり、広げたりしていると思う。」の項目においては、「当てはまる」と回答をした生徒の割合が8割を超えている。

イ 課題

- 「授業では、自分の学習への取組の様子などを振り返る活動をよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると思う。」の項目については、「当てはまらな

い」(「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の合計。)と回答した生徒の割合が2割を超えている。

ウ 今後の対応等

- 授業では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善が着実に進められていることがうかがえる。今後さらに学習を振り返る活動を通して、学びに向かう力を高めるための取組を充実させていく必要がある。その際、教師は、学習活動の目的や意図を明確にもち、達成できているかどうかを適宜確認する必要がある。

□ 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。(複数回答)(単位：%)

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねに行く	友人にたずねる	家族にたずねる	塾や家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
平成29年度	24.7	23.9	74.2	36.5	15.5	54.3	20.0
令和2年度	30.5	26.5	80.9	41.1	15.3	64.2	20.3
令和5年度	30.7	23.2	79.4	35.0	13.4	60.7	20.7

ア 概況

- 授業の中で分からなかった内容について、多くの生徒が多様な方法で理解しようとしていることがうかがえる。
- 授業の中で分からないことがあった場合、「友人にたずねる」と回答した生徒の割合が高く、7割を超えている。

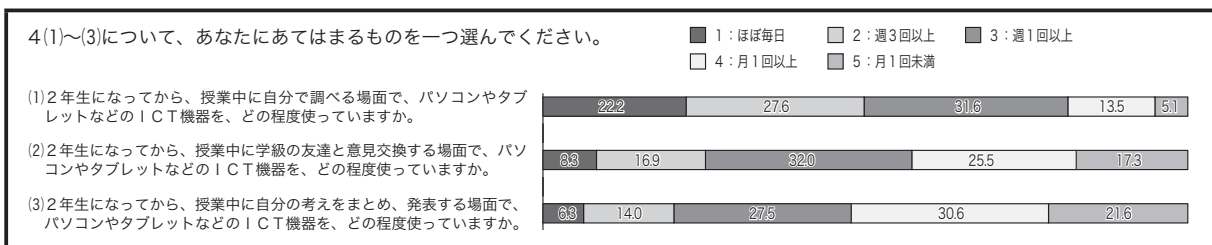
イ 課題

- 授業の中で分からないことがあった場合に、「そのままにしておく」と回答した生徒の割合が2割を超えている。

ウ 今後の対応等

- 教師が一人一人の生徒と触れ合う機会をつくり、信頼関係を築いた上で生徒が相談しやすい人間関係を構築する。
- 授業時間などにおいて、生徒が教え合ったり、教師が個別に補充したり、生徒が分からないことを質問したりする機会を意図的に設定していくことも重要である。
- ICT機器等を活用した調べ方やまとめの仕方などを含めた情報活用能力の育成を図る指導の充実が必要である。

④ ICT機器の活用について (単位：%)



		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
2年生になってから、授業中に自分で調べる場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。	令和5年度	22.2	27.6	31.6	13.5	5.1
2年生になってから、授業中に学級の友達と意見交換する場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。	令和5年度	8.3	16.9	32.0	25.5	17.3
2年生になってから、授業中に自分の考えをまとめ、発表する場面で、パソコンやタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。	令和5年度	6.3	14.0	27.5	30.6	21.6

- 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、パソコンやタブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか。（単位：％）

	3時間以上	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分より 少ない	全くしない
令和5年度	5.2	6.5	13.1	20.0	28.4	26.8

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（単位：％）

5(3)について、当てはまるものを一つ選んでください。

■ 1：4時間以上 □ 2：3時間以上、4時間より少ない ■ 3：2時間以上、3時間より少ない
□ 4：1時間以上、2時間より少ない □ 5：1時間より少ない ■ 6：全くしない

(3)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間も含まれます。）

3.4	8.2	23.6	33.1	22.7	9.0
-----	-----	------	------	------	-----

	4時間以上	3時間以上、 4時間より 少ない	2時間以上、 3時間より 少ない	1時間以上、 2時間より 少ない	1時間より 少ない	全くしない
平成29年度	3.8	15.0	30.9	31.1	15.3	3.5
令和2年度	4.2	14.7	30.0	31.7	15.9	3.4
令和5年度	3.4	8.2	23.6	33.1	22.7	9.0

- 普段（月曜日から金曜日）、家庭でしている勉強は、次のうちどれに近いですか。（複数回答）（単位：％）

	ほとんど勉強しない	宿題が出れば、宿題をする	試験があれば、それにそなえて勉強する	予習をする	復習をする
平成29年度	6.1	84.3	69.5	14.1	44.9
令和2年度	5.7	89.1	65.9	17.5	51.8
令和5年度	13.0	88.0	58.0	11.9	40.7

	興味があることについて自分で調べたり、確かめたりする	苦手な教科に取り組んでいる	時間を決めて、勉強をしている	学習する内容を自分で決めて、勉強をしている
平成29年度	18.6	30.5	18.6	37.9
令和2年度	23.7	32.8	22.4	45.7
令和5年度	25.4	25.0	21.7	36.7

ア 概況

- 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」の合計。）勉強している生徒の割合は5割を超える程度であり、前回調査を下回っている。
- 普段（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上（「1時間以上、2時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」の合計。）ICT機器を勉強のために使用している生徒の割合は2割程度である。
- 普段（月曜日から金曜日）、生徒が家庭学習として取り組んでいる内容は、宿題の割合が約9割である。次いで、「試験があれば、それにそなえて勉強する」「復習をする」「学習する内容を自分で決めて、勉強している」の順で回答した生徒の割合が高く、3割を超えている。
- 休日（土曜日や日曜日など学校が休みの日）に、1日当たり2時間以上（「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上、4時間より少ない」「4時間以上」の合計。）勉強している生徒は3割以上と前回調査より減少しており、平日よりも2割程度多い。

イ 課題

- 休日（土曜日や日曜日など学校が休みの日）に家庭学習を「1時間より少ない」「全くし

ない」と回答した生徒の割合が前回調査よりも増加しており、3割を超えている。

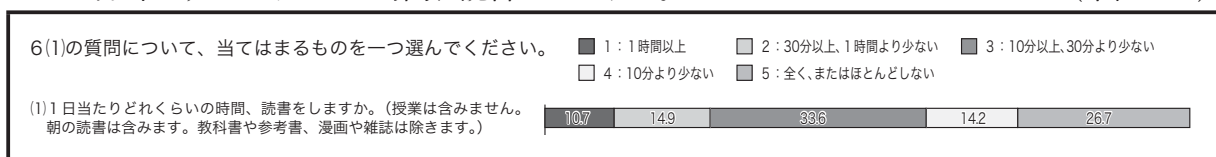
- 普段（月曜日から金曜日）の家庭学習の内容について、前回調査と比較すると、「復習をする」「学習する内容を自分で決めて、勉強をしている」と回答した生徒の割合が約1割減少している。「ほとんど勉強しない」と回答した生徒の割合が、前回調査から倍増している。

ウ 今後の対応等

- 学校や生徒の実態を分析し、学年ごとの学習時間の設定や、教科ごとの学習方法について、教職員間で共通理解を図りながら改善していく。
- 生徒が自主的に家庭学習に取り組めるよう、個に応じた学習内容や方法を具体的に指導するなど支援をする必要がある。また、特に、全くしない生徒について、家庭学習の習慣化を図るために、保護者と家庭学習について情報共有しながら家庭との連携を図る必要がある。

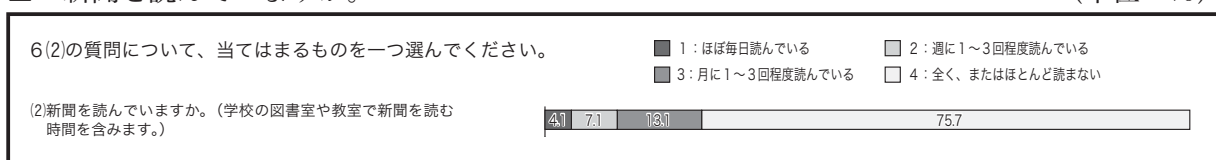
⑥ 読書・新聞を読むことについて

1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 (単位：%)



	1時間以上	30分以上、1時間より少ない	10分以上、30分より少ない	10分より少ない	全く、またはほとんどしない
平成29年度	14.0	20.3	36.9	10.0	18.9
令和2年度	11.7	19.1	38.2	10.8	20.2
令和5年度	10.7	14.9	33.6	14.2	26.7

新聞を読んでいますか。 (単位：%)



	ほぼ毎日	週に1～3回程度	月に1～3回程度	全く、またはほとんど読まない
令和2年度	3.7	8.6	16.2	71.5
令和5年度	4.1	7.1	13.1	75.7

ア 概況

- 平日の読書時間が、「10分以上、30分より少ない」と回答した生徒の割合が3割を超えている。また、30分以上（「1時間以上」「30分以上、1時間より少ない」の合計。）読書をしている生徒の割合は2割を超えている。
- 家庭や学校で、週に1～3回程度以上（「ほぼ毎日」「週に1～3回程度」の合計。）新聞を読んでいる生徒の割合は約1割にとどまっている。

イ 課題

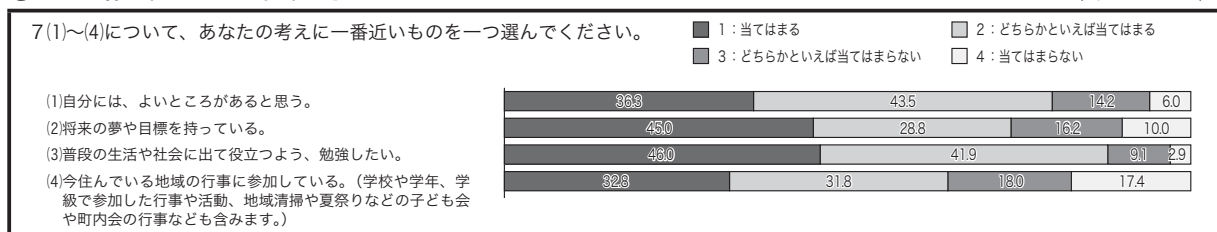
- 読書を、「全く、またはほとんどしない」と回答した生徒の割合が2割を超えている。
- 新聞を、「全く、またはほとんど読まない」と回答した生徒の割合が7割を超えている。

ウ 今後の対応等

- 読書を通して、知識や教養を広げることのよさや大切さについて生徒に気付かせ、自主的に読書をするよう、各教科等においても働きかけの工夫をする。
- 各教科等の特性に応じて、新聞の適切な活用を図ることが重要である。

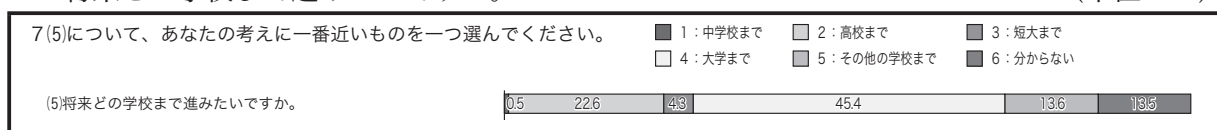
⑦ 進路意識・自己認識等について

(単位：％)



		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがあると思う。	平成29年度	25.0	45.1	21.1	8.8
	令和2年度	31.9	42.7	18.0	7.3
	令和5年度	36.3	43.5	14.2	6.0
将来の夢や目標を持っている。	平成29年度	47.4	27.7	15.4	9.5
	令和2年度	46.9	26.9	16.7	9.5
	令和5年度	45.0	28.8	16.2	10.0
普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい。	平成29年度	41.3	43.2	12.3	3.3
	令和2年度	44.3	41.7	11.7	2.3
	令和5年度	46.0	41.9	9.1	2.9
今住んでいる地域の行事に参加している。	平成29年度	38.0	29.7	17.2	15.0
	令和2年度	32.6	29.8	19.8	17.6
	令和5年度	32.8	31.8	18.0	17.4

□ 将来どの学校まで進みたいですか。(単位：％)



	中学校まで	高校まで	短大まで	大学まで	その他の学校まで	分からない
平成29年度	1.0	22.5	5.8	41.6	14.8	14.1
令和2年度	0.6	21.3	5.1	44.5	15.0	13.5
令和5年度	0.5	22.6	4.3	45.4	13.6	13.5

ア 概況

- 「自分には、よいところがあると思う」(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。)と回答した生徒の割合は7割を超えており、前回調査から増加している。
- 「普段の生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」(「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計。)と回答した生徒の割合は毎回8割を超えている。

イ 課題

- 「将来の夢や目標を持っている」の項目について、2割を超える生徒が「当てはまらない」(「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の合計。)と回答しており、前回調査から大きな変化は見られなかった。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目において、3割を超える生徒が「参加していない」(「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」の合計。)と回答をしている。

ウ 今後の対応等

- 自らを肯定的に受け止めることのできる生徒が多く、目標を明確に持っている傾向にあることから、今後も各教科等において、豊かな人間性を育む教育やキャリア教育を全校体制で進めることが大切である。
- 各教科等の学習において、地域や社会とのつながりをもたせた学習活動を計画的に設定し、生徒に対し、学習した内容は、実生活で活かせることや自己の将来につながるという実感をもたせるための工夫をする必要がある。

(3) まとめ

① 教科の学習に対する児童生徒の意識について

勉強については、多くの教科において「好きだ」、「大切だ」と肯定的に回答している児童生徒の割合が引き続き高いが、一方で、「好きではない」、「大切ではない」と否定的に回答している児童生徒も1～3割程度いる。

今後は、各教科においては、引き続き授業の導入段階で学習意欲を喚起、向上させる工夫をしたり、各教科等の特質に応じた体験活動の充実に取り組んだり、児童生徒自らが学習課題や学習活動を選択する機会を設けたりするなど、創意工夫を生かした教育活動を充実することが必要である。

② 教科の学習に対する児童生徒自身の理解度について

「授業が分かる」と肯定的に回答した割合は、小学校では約8割、中学校では約6割であり、確かな学力の定着に向け、授業が改善されつつあることがうかがえる。今後も児童生徒の学習意欲や定着の状況の見取りを基にして、児童生徒に求められる資質・能力を確実に育成することが大切である。

特に、中学校英語については「授業が分かる」と肯定的に回答した割合が、5割を下回っている。また、対象となった中学2年生が小学5年生（令和2年度調査）の時と比較すると肯定的な回答が減少している。

令和5年度全国学力学習状況調査の結果において、『授業において言語活動に取り組んでいたと受け止めている中学校生徒ほど、「英語の授業の内容はよく分かる」「英語の授業が好き」と回答している傾向が見られる』と示されている。そこで、今後は、中学校において英語を用いた言語活動のさらなる充実を図り、英語でのコミュニケーションの目的や場面、状況などを意識し、自分の考えなどを伝え合う言語活動を取り入れることや、言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり自己表現活動の工夫をしたりすることなど、生徒が英語に触れる機会の充実を図る必要がある。

③ 授業に関する児童生徒の受け止めについて

児童生徒が自身の学習を振り返ることなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関わる各設問への回答状況について、肯定的に回答した割合は小学校では8割、中学校では7割を超えており、概ね授業改善が図られていると捉えることができる。

今後も引き続き、自分自身の学習への取組の様子や考えの変化、新たな気付き・疑問、学習内容や他教科等の学習内容を関連付ける視点での振り返り活動や、いろいろな考えを聞き、自分の考えを深めたり、広げたりする活動を計画的に取り入れることが重要である。また、分からないことは多様な方法で理解しようとしている傾向がある。一方、小・中学校どちらにおいても、「そのままにしておく」と回答した児童生徒が一定数存在することから、協働で取り組む活動、分からない学習内容についての調べ方や調べたことのまとめ方などを含めた指導をする必要がある。

④ ICT機器の活用について

小・中学校で、授業中に週3回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合は、調べる場面で約5割、意見交換する場面、自分の考えをまとめ、発表する場面では、約2割となっている。

令和5年度全国学力学習状況調査では、「児童生徒が、自らの考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発言や発表を行うことができる」と回答した学校ほど、「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」でICT機器を使用させている頻度が高いという結果が示されている。このことから、今後は、授業中のICT機器の活用頻度を高めるとともに、「学級の友達と意見交換する場面」や「自分の考えをまとめ、発表する場面」においてのICT機器の活用を促進する必要がある。

⑤ 家庭での学習の取組について

家庭学習については、平日1時間以上取り組んでいる児童生徒が5割以上、休日1時間以上取り組んでいる児童生徒が6割以上と前回調査から約1割減少している。一方で、家庭学習の時間が確保されておらず、支援の必要な児童生徒が前回調査より増加している状況である。

今後は、小学校高学年では平日1時間以上、中学校では平日2時間以上の学習時間を目安として、児童生徒自らの課題に応じた学習内容や方法について計画をたてて家庭学習に取り組むよう継続して支援するとともに、保護者面談などの場を活用し、保護者と家庭学習習慣の確立について話し合い、保護者と協力体制を築き、連携していくことが大切である。

⑥ 児童生徒の読書、新聞を読むことについて

読書については、習慣化している児童生徒が一定数いる一方で、小学校では約2割、中学校では約3割の児童生徒が全く、またはほとんど読書をしていない状況にある。また、新聞を読むことについては、小学校では約7割、中学校では約8割の児童生徒が、家庭や学校で新聞を全く、またはほとんど読んでいない状況にある。

今後は、読書が児童生徒の言語能力の育成等に寄与することが期待されることから、各教科等において学習内容と関連する本を紹介するなど、意図的・計画的に児童生徒がより一層読書に親しむ習慣作りの工夫を図る必要がある。また、新聞を読むことが児童生徒の情報活用能力の育成等につながることを期待されることから、学校図書館に新聞を整備し、読むことができる環境を整えたり、各教科等において新聞を適切に活用して情報を比較したり、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読んだりすることで、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」へつなげる取組が必要である。

⑦ 児童生徒の進路意識・自己認識等について

児童生徒の自己認識や進学については、小・中学校ともに自己肯定感が高く、将来への夢を明確にもっている傾向にあり、高校卒業後の上級学校への進学を考えている児童生徒が多い。

今後は、活動の過程を記述し振り返ることができるキャリア・パスポートのより一層の活用を通して、児童生徒が自己の変容を把握し、将来の生き方を考える活動を行うなど、特別活動を要として、学校の教育活動全体を通してキャリア教育を行い、今の学びと将来の自己の姿をつなぐ活動を取り入れることが重要である。

加えて、各教科等と総合的な学習の時間を関連付けながら、児童生徒が自ら地域の行事や活動に参加できるような環境を整えたり、児童生徒に地域のよさや課題を発見させたり、その解決策を考えさせたりするなどの探究的な学習に取り組む必要があることにより、社会参画の意識を高める必要がある。

【参考文献】

「家庭学習に教科書を使用した予習を取り入れよう」 青森県教育委員会

「学びの質を高める授業改善プロジェクト事業『学びの質を高める授業スタンダード』」 青森県教育委員会

「新しい時代を主体的に切り拓く小中学生育成支援事業 研究実践校報告書集」 青森県教育委員会

「令和4年度 全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策」 青森県教育委員会

「令和4年度 英語教育実施状況調査結果概要」 文部科学省

「令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）」 国立教育政策研究所